

国語科学習指導案

指導者 ○○小学校 教諭 ○○ ○○

1 日時 平成23年7月○日

2 学年・組 第6学年2組

3 指導事項

(1) 読むこと イ

- ・ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

読むこと ウ

- ・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。

(2) 言語事項 イ(キ)

- ・ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

言語事項 イ(ケ)

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

4 単元名 書き手のくふうを考えながら新聞の投書を読もう「新聞の投書を読み比べよう」

5 言語活動

- ・ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。	○ 理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。 ○ 書き手の意見について自分はどう考えるか意識しながら、それぞれの投書を読んでいる。	○ 文章全体の構成は、目的に応じて決定されており、自分の考えを明確にするためには様々な表現があることを理解し、活用することができる。

7 単元について

○ 児童の状況

- ・ 「ばらの谷」の学習を通して、時を表す語句・繰り返しや似た表現等に着目し、物語の構成をとらえることができるようになった。しかし、文の構成をとらえることができないため、物語の全体像をつかむことができない児童もいる。
- ・ 「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習を通して、事実と筆者の主張の関係を押さえ、内容を読み取ることができるようになった。しかし、筆者の主張に対して自分の考えをまとめたり、その理由や根拠を示したりすることが十分ではない児童もいる。

- ・ 授業中に発言する児童に偏りがみられる。自分の考えに自信をもつことができないため、発言することを苦手としている児童や、周りの目を意識するあまり安心して発言することができない児童がいる。
- ・ 一人ひとりの考えを尊重するために、最後まで静かに・相手の意図を考えながら・反応を示して聞くことの大切さを常に確認している。しかし、相手の思いをくみとりながら聞いたり、相手の考えと比較して自分の考えを伝えたりすることを苦手としている児童もいる。

○ 教材の価値

- ・ 同じテーマに対する新聞の投書を比べて読むという言語活動を通じ、読み手を説得するための工夫がどのようになされているかをとらえ、文章を評価する力を育てることができる。
- ・ 投書を読むという学習は、意見文を読むことによる自分の意見の広がり・意見交流にとどまらず、投書することにより一種の社会参画にもつながる。投書を読んだり、新聞を読む習慣がついたりすることで、日常の読書生活にも広がりが見られるようになる。

○ 指導の工夫

- ・ 自分の考えの理由や根拠を明確に示すことができるようにするために、投書の文章構成を分析する。

- ・ 自分の考えを整理しやすくするために、メモ書きをしたり、そのメモを加除修正したりする書く活動を取り入れる。
- ・ 自分の考えを導くヒントを得たり、安心して発言したりすることができるように、ペアやグループ学習を取り入れたい。また、そうすることで児童一人ひとりに自分の考えを発言する機会を保障する。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動	評価規準・評価方法	観点		
				関・意・態	読む能力	言語事項
一	1	○投書とは何かを知る。 ○四つの投書を読んで、大まかな内容を理解する。	投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。 (発言・音読・行動観察)	○		
二	2	○投書①②を音読する。 ○二つの投書の書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえる。	理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み、書き手の意見や主張を読み取っている。(発言・ノート)		○	
	3	○投書③④を音読する。 ○二つの投書の書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえる。	理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み、書き手の意見や主張を読み取っている。(発言・ノート)		○	
	4 ・ 5	○四つの投書を音読する。 ○それぞれの投書の文章構成を理解する。 ○それぞれの投書の説得の工夫をとらえる。	書き手の意見について自分はどうかを意識しながら読み、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえる。(発言・ノート)		○	
三	6 本時	○四つの投書を音読する。 ○自分が納得した投書とその理由をグループ内で発表する。	聞き手に自分の考えが伝わるよう、理由を明確にして伝えている。 (発言、ワークシート)			○

9 本時の目標

- 相手に自分の考えが伝わるよう、理由を明確にして伝えることができる。

10 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価基準・評価方法
1 四つの投書を音読する。	○ 四つの投書を拡大コピーしておき、前を向いて音読できるようにする。	
自分が納得した投書とその理由を相手に分かりやすく伝えよう。		
2 納得した投書とその理由を書く。	○ 内容はもちろん、表現の工夫などにも着目させ、理由を書かせる。 ○ 理由が書けていない児童に対して、自分の知識・経験や伝聞などを結び付けて考えさせることにより、説得力のある説明をすることができるようにする。	A : 自分が納得した投書の理由を自分の知識や経験等と結び付けたり、相手を説得する表現の工夫を使ったりして、相手に分かりやすく伝えることができている。 [知識・理解・技能:ワークシート]
3 自分が納得した投書とその理由をグループ内で発表する。	○ 発表者は、自分が納得した投書とその理由を、表現を工夫して相手を説得するつもりで伝えることや、聞き手は相手の意図を考えて聞いたり、質問したりすることを確認する。	B : 自分が納得した投書の理由を相手に伝えることができている。 [知識・理解・技能:ワークシート]

<p>4 友達の説明の良かったところを全体の場で発表する。</p>	<p>○ どのような表現を使ったらよいか分からない児童のために、ヒントカードを準備しておく。</p> <p>○ 相手の考えのどのようなところが良かったかを考えながら聞くことができるように聴く姿勢を確認する。</p> <p>○ どのような根拠の示し方が良かったのか、表現をどのように工夫していたのか等、これまでの学習を想起する。</p>
<p>5 本単元で、どのようなことが分かったのかをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投書がどのようなものかが分かりました。 ・ 読み手や聞き手を説得するためにはどのような工夫をすればよいか分かりました。 	<p>○ 本単元を学習して、分かったこと・できるようになったこと・これからに活かしていきたいことは何か問いかける。</p>